



双塔

カトリック新潟教会

2026年3月

No. 453

港町新潟で『地の塩』

主任司祭 田中 丈夫

1871年5月19日(明治4年4月1日)に、宣教師エヴラル神父が再宣教の使命を帯びて来潟した。しかし資料は、エヴラル神父は一人の信者も獲得しないうちに1875(明治8)年9月横浜へ転任になったと伝えているのだが、その背景にはどのような事情があったのであろうか。

多くの宣教師が最初に再宣教の拠点としたのは開港場だが、港町新潟も再宣教の拠点となった。エヴラル神父が来潟した1871(明治4)年に「廃藩置県」が実行されたが、ここでは1858年の修好通商条約まで遡って港町新潟の歴史を簡単に概観し、初期宣教師の活動に思いを馳せたい。

幕末の1859年、パリ外国宣教会のジラル神父らが日本の再宣教のために来日。それから約10年後の1870年2月8日(明治3年1月8日)函館から横浜に向かう途中、カトリック宣教師が一度も訪れたことのない新潟を視察するようにとの命令を受けたアルンプリュステル神父が来潟した。神父を乗せた2本マストの小帆船は、真冬の荒波に翻弄されながら航海、一度は新潟港外の砂浜に乗り上げもしたが、無事に目的地に辿り着いたと資料は伝える。新潟が開港してから1年後のことであった。

日本は1858年、アメリカなど5カ国と修好通商条約を締結。新潟は開港5港の一つに指定された。日本海側最大の港町であること、幕府領であることが選ばれた理由だった。しかし各国は、新潟港は信濃川の河口港で水深が浅く、開港場としてふさわしくないと難色を示したという。幕府は各国と交渉を重ね、1867年11月佐渡両津湾の夷港を補助港とすることを条件に正式に新潟開港が決定した。しかし新潟港の開港は延期された。1867年11月に大政奉還、1868年1月王政復古の号令を経て明治政府が誕生したのである。そして、1868年(慶応4年1月3日)戊辰戦争が勃発、中越地方では新政府軍と奥羽越列藩同盟との間で長岡城をめぐる攻防が繰り返された。新潟町は米沢・会津・仙台・庄内藩の共同管理下に置かれ、列藩同盟の軍事物資補給の拠点となっていた。新政府軍にとっては、中越地方の戦線を制するためにも新潟町を落とす必要があった。新潟上陸作戦は7月25日に行われた。この日軍艦2隻に護衛された政府軍千人余りは松ヶ崎、太夫浜、嶋見浜に上陸し、新潟町へと進軍し中心部を制圧、新潟民政局を設置して直轄地にした。9月22日、列藩同盟は消滅した。

1869年1月1日(明治元年11月19日)新政府は新潟を開港した。開港場を重視する政府は1870(明治3)年、水原県を新潟県と改め、新潟町を県庁所在地とした。

この頃、新潟は、戊辰戦争での敗戦後の過酷な処分に不満を持つ士族などが住みつき、また諸国から開港場へ仕事を求めて来た浪人が横行して、危険な状態にあったという。西南戦争ほどではないとしても不満を持つ士族によるテロ・紛争・武装蜂起が各地で起こったであろうことは推察できる。

「廃藩置県」とは、平安時代から続いていた各地の領主による「地方分権政治」が中央政府に一元化されるという大改革であった。この改革によって人々の生活が大きく変化したであろうことが想像されるが、エヴラル神父が新潟に滞在した4年間に思いを馳せるには、当時の社会状況を踏まえておくことは必要であろう。エヴラル神父が新潟を離れた直後、10月にドルワール・ド・レゼー神父が来潟。翌年1876年4月15日、庄内藩出身の阿曾吉常氏が新潟で最初の受洗者となった。エヴラル神父の4年間の新潟滞在中に福音の種が蒔かれたと言えるし、エヴラル神父は港町新潟で『地の塩』であったとも言えるであろう。【参考：『新潟県百年のあゆみ』(新潟県発行S46.5.31再版発行)、他】

インフォメーション!

●信徒のみなさんへの「お知らせ」の方法について（小教区評議会）

- ①センター掲示板おしらせに掲載しています（外壁ガラス掲示板）のでご覧ください。
- ②「おしらせ」のある方は、9時半主日ミサでのお知らせと掲示板の貼り出し、月刊双塔への掲載をお願いします。（広報部アドレス：soutou1656@gmail.com）

●入門講座 主任司祭 田中神父にご相談ください。

●聖書勉強会

日時 毎週水曜日 午前10時～ 会場 カトリックセンター研究室 指導 田中神父

●信仰養成講座

日時 毎月第2土曜日 午前10時～ 会場 カトリックセンター研究室 指導 町田神父

※新約・旧約聖書を使います。各自ご持参ください。

●月曜会（秋田の聖母を通して祈る会：野村）

成井司教のミサとロザリオの祈り（どなたでも、ミサのみ参加も可）

今後の予定 3月9日(月) ※2026年1月、2月は、休会

時間 午前11時～ 指導 成井司教 会場 新潟教会聖堂

●教会維持費などの献金について（小教区評議会）

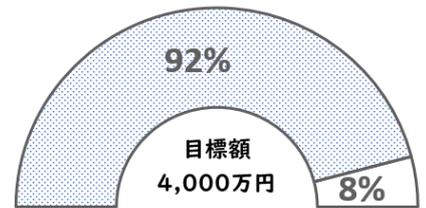
献金袋が無い方は、聖堂維持費棚の右下に袋があります。各自でご記入の上、日曜日に中央柱の維持費入に入れてください。

●聖堂修繕工事のための特別献金のこと（小教区評議会）

聖堂修繕工事のための特別献金 目標額 4,000万円

★2026年1月31日現在 累計額 3,675万円(進捗率：92%)

(1万円以下四捨五入)



<その他献金活動の報告>

語らいの場・異人池茶の間 (9:30 ミサ後 研究室)

「異人池茶の間」の案内板に「コーヒーあります」と掲示されている日はドリップコーヒーを販売していますので、どうぞお立ち寄りください。

※ドリップコーヒー係のお手伝いを募集しています。お手伝いいただける方は小嶋(綾)までお声がけください。（カテドラル保存会）

●四旬節黙想会のご案内（信仰養成）

大瀧神父の黙想指導で、以下日程で行われます。（会場 聖堂）

日時 3月14日(土) 14:00 講話とゆるしの秘跡

3月15日(日) 9:30 ミサ（司式：大瀧神父）ミサ後ゆるしの秘跡

尚、英語黙想会はフック神父指導で3月1日(日)に行われます。

●復活祭ご協力をお願い（総務部）

①4/5(日) 9:30 ミサ後祝賀会のカレー材料（米、玉ねぎ、じゃがいも、にんじん）のご寄付。

重複を避けるため、3/15用紙にお名前をご記入の上、3/29 ミサ後にセンター入口にお持ちください。

②イースターエッグ卵染めのお手伝い

・4/3(金) 11:30 卵染め、カレー材料切り

・4/4(土) 13:30 卵の模様付けと販売用袋詰め、カレー調理

③4/5(日) イースターエッグ2個入り 200円、クララ会クッキー500円で販売します。

収益は新潟カテドラル修繕に献金いたします。

みなさま、ご無理のない範囲でご協力よろしくお願ひいたします♪

2026年3月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日等、教会の行事
1日(日)	四旬節第2主日 ・小教区評議会(9:30 ミサ後 研究室) ・英語ミサ、四旬節黙想会(英語)(12:00) ・清掃日(センター、外のトイレ:英語ミサ後)
2日(月)	・司祭静修(～3日)
6日(金)	性虐待被害者のための祈りと償いの日 ・ミサ10:00(初金) ・十字架の道行(10:00 ミサ後)
8日(日)	四旬節第3主日 ・清掃日(聖堂大掃除、外のトイレ、センター:9:30 ミサ後) ・総務部会(清掃後 研究室)
13日(金)	・十字架の道行(10:00 ミサ後)
14日(土)	・信仰養成講座(10:00 研究室/指導:町田神父) ・四旬節黙想会(14:00 聖堂/指導:大瀧神父/講話とゆるしの秘跡)
15日(日)	四旬節第4主日 ・四旬節黙想会(9:30 ミサ/司式:大瀧神父、ミサ後ゆるしの秘跡) ・国際協力部会(ミサ後 研究室) ・広報部会(ミサ後 事務室) ・ベトナム語ミサ(12:00)
17日(火)	日本の信徒発見の聖母(祝日)
19日(木)	聖ヨセフ(祭日)
20日(金)	・十字架の道行(10:00 ミサ後) ・下越地区協議会(10:00 センター2階)
22日(日)	四旬節第5主日
25日(水)	神のお告げ(祭日) ・ミサ(10:00)
27日(金)	・十字架の道行(10:00 ミサ後)
29日(日)	受難の主日(枝の主日・聖週間) ・教会維持費の整理(9:30 ミサ後 事務室)
31日(火)	・聖香油ミサ(10:00)

※ ミサ時間

日曜日(7:00、9:30) 英語ミサ(第1日曜12:00) ベトナム語ミサ(第3日曜12:00)
火曜～木曜、土曜(7:00) 金曜(10:00)

★朝ミサ7:00は休止になることもあります。ご確認の上ご参加ください。

※ 聖堂開堂時間

毎日9:00～18:00(都合により左記時間が変更となる場合がございます)

